

# 京都府行財政改革支援等特別交付金 自己評価調書

団体名

京丹後市

## 2. 平成25年度 行財政改革支援等特別交付金事業の個別評価について 【小規模市町村支援・広域連携事業支援用 個別表】

| 支援区分                   | 事業名・実施項目  |        |   |
|------------------------|---|--------|---|
| 広域連携事業                 | 公共交通利用促進事業  |        |   |
| 事業着手前                  |   |        |   |
| 課題・現状                  | 丹後地域の公共交通の大動脈である北近畿タンゴ鉄道(KTR)は、京阪神と本市や丹後・但馬間並びに市内の要所を結び、通学・通勤や観光・ビジネス客の重要な移動手段であるが、近年、乗客数の落ち込みが著しいため、乗客の減少に歯止めをかけるとともに利用を促進する必要がある。 |        |   |
| 事業概要                   | 高齢者(65歳以上)が北近畿タンゴ鉄道(KTR)を利用する場合に片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図る。   |        |   |
| 期待される事業効果等             | これまで個々の自治体でそれぞれがKTR利用促進事業を実施していたが、広域連携による事業実施により、丹後地域全体の相乗効果が期待できる。また、広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができる。                              |        |   |
| 事業実績                   |   |        |   |
| 取組状況                   | 高齢者(65歳以上)が北近畿タンゴ鉄道(KTR)を利用する場合に片道運賃の上限を200円とすることで、安価で便利な公共交通として利用の促進を図った。  |        |   |
| 主な実績数値<br>(出来高数値等)     | 65歳以上の利用者:平成24年度 7,879人 → 平成25年度 8,754人(前年比1.1倍)  |        |   |
| 期待される事業効果等<br>に対する達成状況 | 達成  | (左の理由) | 広域連携での事業実施により丹後地域全体での利用促進が図れた。また、広域連携によるコスト削減により財政負担の軽減を図ることができた。 |
| 行革効果                   |   |        |   |
| 行革効果の考え方               | 丹後広域で200円レール事業を行うことにより、効果的なKTRの利用促進が図られ、単独で事業を展開した場合は2市2町委託料総額以上の事業費が必要と見込まれる。  |        |   |

| 年度                    | 平成24年度 | 平成25年度 |  |  |  |  |  |  |  |
|-----------------------|--------|--------|--|--|--|--|--|--|--|
| 本事業を行わなかった場合に係る経費等(a) | 10,235 | 24,123 |  |  |  |  |  |  |  |
| 本事業の実績額(b)            | 5,212  | 11,680 |  |  |  |  |  |  |  |
| 行革効果(a)-(b)           | 5,023  | 12,443 |  |  |  |  |  |  |  |

(記載要領)

- 1 事業毎に調書を作成すること
- 2 「期待される事業効果等に対する達成状況」については、「達成」、「未達成」を記入し、その理由を右欄に記載すること。